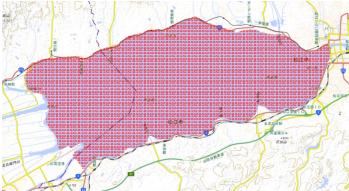


生物・生態サイトカード

通しNo.	B-2		更新日	2025/3/19	
サイト名	宍道湖で見つかったシンジコハゼ				
基本情報	区分	<input checked="" type="checkbox"/> 動物 <input type="checkbox"/> 植物			
	生息地	松江市、出雲市(宍道湖)			
	分類				
	管理団体／保護団体／モニタリング	島根県等			
	留意点	しまねレッドデータブック(絶滅危惧 II 類)			
サイトの解説	生物・生態	<p>宍道湖やその周辺の水域には、わが国では宍道湖で初めて見つかり「シンジコハゼ」と名前が付けられた珍しいハゼが生息している。</p> <p>1985年に宍道湖に生息するウキゴリ属の一種が、日本初記録種であることが分かった。このハゼが最初に発見されたのはロシアの沿海州で、7年前の1978年に発表されていた。その新種のハゼが、わが国では宍道湖で初めて確認され注目されたのである。その後の調査で、わが国では富山県や石川県などでも見つかり、ほぼ同時期に韓国の大韓海岸でも確認された。その結果、日本海を取り囲む形で遺存的に生息していることが分かってきている。</p> <p>このハゼは5cmほどの小型のハゼで、体側には6~7本の淡色横斑があり、産卵期になるとメスの体全体が黒化すると共に横斑が鮮やかな黄色となる。このような婚姻色は、多くの生物ではオスにみられるが、このなかまではメスに見られるのが特徴である。</p> <p>産卵期は3~4月上旬で、波の静かな流入河川の河口部などの砂泥底に巣穴を掘って産卵する。近縁種のビリンゴと棲み分けをしており、本種が弱汽水の宍道湖や周辺の淡水域に、ビリンゴが中海の汽水域にと明瞭な棲み分けがみられる。このような生息状況や、頭部にある感覚管の形状などから、淡水域に生息するジュズカケハゼと汽水域に生息するビリンゴとの中間的な形態や生態が見られることから、日本列島が形成される過程でできた広大な弱汽水域で種分化したハゼではないかと考えられている。</p> <p>近年宍道湖では生息数が減少しており、絶滅の恐れがあることから環境省や島根県のレッドデータブック種に選定されている。</p>			
	地形・地質、歴史・文化等	<p>宍道湖の水位を観測している出雲河川事務所のデータによると、1980年頃より2020年までに15cmほど上昇している。現在、水位上昇に伴う水質変化が低塩分域で適応した宍道湖の生態系にどのような影響をもたらしているか島根大学や県水産技術センター等の研究機関で研究が進められている。</p>			
写真・図等					
シンジコハゼ(メス)		婚姻色が出たシンジコハゼ(メス)			
参考文献	<p>佐藤仁志(2015) 松江市史 通史編1自然環境・原始・古代(松江市史編集委員会): 129-131. 松江市.</p> <p>佐藤仁志(1989) 島根県におけるウキゴリ属の1種 <i>Chaenogobius taranetzi</i> について. 島根野生生物研究会会報 6. 26-33.</p> <p>越川敏樹・佐藤仁志(1986) 宍道湖に生息するウキゴリ属の1種. 淡水魚.(12) 51-55.</p>				